

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和7年8月分）

【製造業】

- 製造業は、6月の鉱工業生産指数は前月比▲4.9%となった。ヒアリングでは、IT関係の半導体等の製造に使う部材については、相次ぐデータセンターの開設やEVの普及による需要の高まりで売上が好調との声が聞かれる一方で、自動車メーカーやティアワンも増産する様子がなく、営業部門は弱気になっているとの声や新たな新車発表の予定がなく、来期の売上が下がる見込みとの声が聞かれた。
- 地場産業は、6月の鉱工業生産指数は、食料品、パルプ・紙、木材・木製品、家具で下降した。ヒアリングでは、売上、受注状況ともに昨年同時期と比べ微増で好調との声が聞かれる一方で、中国経済の低迷で安価な製品が流入し、国内中小企業の受注が減少しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、7月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比3.6%増加となった。ヒアリングでは、更新に伴うものなど必要最低限のものが多く、あまり活発でない印象との声や、大規模な設備投資は控えているが、福利厚生の一環として食堂や空調設備の整備を進めているとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、7月の販売額は、全体で前年同月比0.1%増加となった。ヒアリングでは、県内商業施設にて来客数は単月で過去最高を更新予定との声が聞かれる一方で、インバウンドは若干の増加傾向にあるが、猛暑の影響で観光客・住人とも日中に散歩することが激減し、売上も伸び悩んでいるとの声が聞かれた。

【観光】

- 観光客数は前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、観光客数はコロナ前と同水準、宿泊者数は約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 7月の制度融資実績は金額で12ヶ月連続で減少となった。資金需要について賃上げによる人件費の高騰、物価高等の影響を受け、業種問わず運転資金のニーズが高いとの声や、金利上昇局面であるが、参院選の与党過半数割れの結果やアメリカの利下げなどの状況で、若干以前よりトーンダウンしているような印象も受けるとの声が聞かれた。

【雇用】

- 7月の有効求人倍率は1.47倍と前月比0.04ポイント上昇となった。ヒアリングでは、新規採用のため工業高校の指定校にお願いしているが、初任給が上がっており大変厳しくなっているため、地元就職する生徒が多い普通科高校にも働きかけを行っているとの声が聞かれた。待遇面については、雇用維持のため最低賃金の引き上げはやむを得ないが、価格転嫁が進まず利益が出ないとの声が聞かれた。

【景気動向】

- 6月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲3.5ポイント、7月の中小企業の景況感と同▲3.0ポイントとなった。